

適切な文法形式の選び方

一橋大学国際教育センター教授 庵 功雄

isaoiori AT courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

1. 文と文法

- 文は文法と語彙の組み合わせで作られる
- 太郎が食堂で炒飯を食べている。(横の関係 = 文法)
- ↓ ↓ ↓ ↓ (縦の関係 = 語彙)
- → 横の関係 (統合的syntagmatic関係) である「文法 (文型)」は、思考を言語化するための「鋳型」を提供し、縦の関係 (範列的paradigmatic関係) である「語彙」が実際のさまざまな文を作り出す
- → 「想」を言語化するための「文型」
- (林1960=2013、庵2018)

1. 文と文法

- 初級：とりあえず「想」を形にできる
(制限コード restricted code)
- 中級以降：より複雑な概念を述べられる
(精密コード elaborated code)
- 例. 「条件」の表し方 (庵2015a, 2015b, 2017a)
 - とすれば／とすると／としたら (課題設定)
 - なら (条件)
 - と、たら (事実的条件)
 - ば (仮定条件)
 - たら (仮定条件)、なら (主題)

1. 本発表の目的

- 以上の文法観を踏まえて、
- ボイス（受身、使役）、テンス・アスペクト（ている、ていた）、複文を材料に、レベルごとに習得すべき文法的内容を考える

1. 本発表の流れ

- 以下の順で見えていく
- 1. 学習者ができていること
- 2. (狭義の) 誤用
- 3. 制限コードレベルに留まっている場合
- 4. 母語話者と差が見られる場合
- *ボイス：中国語話者と韓国語話者に共通点
- *テンス・アスペクト（ている、ていた）、複文：
- 中国語話者と韓国語話者の違いはレベル差、
- 韓国語話者は母語話者に近い

2. ボイス

- 1. 学習者ができていること
- 無情物受身（無情物が主語の受身）が多い
- →書きことばの特徴は習得されている

	母語話者	韓国語話者	中国語話者
有情物主語	89	63	39
無情物主語	362	204	246
合計	451	267	285

2. ボイス

- 2. 誤用

- 助詞の誤り（受身）

- 大慶の杜尔伯特モンゴル自治県に来るとき、モンゴル族の文化を感じている。同時に、心は草原の魅力を（→に）ひきつけられる。

（C27-1）

- 「晩婚化」が問題になっている今までもテレビでは依然として独身生活を（→が）美化されている。（K20-2）

2. ボイス

● 2. 誤用

● 自動詞の受身化（受身）（庵2010）

- 鞍山市の観光事業はもうよく発展される（→発展する）に伴って、鞍山市に遊びに来る観光客はますます多くなっていくと考えている。（C17-1）

- [江南は] オフィス、病院、外国語塾、ショッピングモール、食べ物屋さんが密集された（→密集した）いづもにぎやかなところです。（K15-1）

- → 「無意志動詞＋する」は使いこなしにくい。

- Ex. * （彼女の演技を見て）興奮になる（→興奮する）

- * （本の内容に）感動される（→感動する）

- * （新しい法律が）成立される（→成立する）

- * （トンネルが）開通される（→開通する）

2. ボイス

● 2. 誤用

- **視点制約違反（中国語話者）**（久野1978, 陳2017）
- 私は大体5年生の時に『鳥肌』という人気のスリラー小説に溺れた。授業中にも小説が教科書の下に隠されたり、膝の上と机の下に隙間に挟まれたりして、こっそりと興味津津に読み込んでいった。（→ [私は] 小説を教科書の下に隠したり、膝の上と机の下の隙間に挟んだりして）（C57-1）
- 大人になる一つの象徴として、婚姻は自然に彼らに抵抗される。（→ 彼らは自然に婚姻に抵抗する）（C06-2）

2. ボイス

- 2. 誤用

- 物主語の使役文の多用（中国語話者・使役）

- 従って、今までやったのはその目立ちもないバスケットボールのことだ。なぜかというのと、私は女の子として、身長が178センチメートルもあるの他に、強そうな感じが人にさせられたのだ。（→強そうな感じを人にさせる→強そうな感じを人に与える）（C50-1）

2. ボイス

- **3. 制限コードレベルに留まっている場合**
- **接続する形式が固定化されている**
- **ば・たら 16 (C2, K0) てくる 11 (C1, K4)**
- **たり 9 (C4, K0) てしまう 4 (C0, K0) など**

2. ボイス

- 3. 制限コードレベルに留まっている場合
- **さまざまな形式との接続**
- 全ての駅に託児所や保育園が設置されれば、働いている女性も気軽に出産ができるようになり、結婚にも前向きになるだろう。(J01-2)
- 晩婚でも早婚でも子供を産めるチャンスが増えるか減るかだけで本質的には結婚することに変わりはないわけで時期は関係ない。それでも私自身小さい頃から結婚は早すぎるのが良いとは限らないけど遅くならないうちにできればした方が良いと言われ**てきた**。(J12-2)

2. ボイス

- 4. 母語話者と差が見られる場合
- **受身**（複雑な方の形式）の**使用数**

	母語話者	韓国語話者	中国語話者
有情物主語	89	63	39
無情物主語	362	204	246
合計	451	267	285

2. ボイス

- 4. 母語話者と差が見られる場合
- 「**させてくれる**」文
- 切符は旅で辿った線路を浮かび上がらせ、降りた駅で感じた様々な感情を思い出**させ****てくれる**。(J17-3)

3. テンス・アスペクト

- 1. 学習者ができていること
- 「ている」の前接動詞（非受身＝単純な方の形式）

母語話者			韓国語話者			中国語話者		
順位	語彙素	頻度	順位	語彙素	頻度	順位	語彙素	頻度
1	なる	44	1	なる	39	1	思う	51
2	進む	26	2	思う	29	2	なる	49
3	思う	25	2	持つ	29	3	持つ	42
4	持つ	16	4	住む	28	4	考える	18
5	する	11	5	する	27	5	進む	14
6	増える	10	6	増える	24	5	増える	14
6	住む	10	7	進む	19	7	知る	12
8	覚える	9	8	見る	18	8	見る	8
8	読む	9	9	集まる	14	8	する	8
10	知る	7	10	売る	13	10	生活する	6
10	流れる	7	11	知る	12	10	発展する	6
10	感じる	7	11	残る	12	12	覚える	5
10	流れる	7	13	生きる	11	12	書く	5
14	入る	6	14	覚える	10	12	上がる	5
14	見る	6	15	考える	8	12	はっきりする	5
14	残る	6				12	信じる	5
						12	似る	5

3. テンス・アスペクト

- 2. 誤用（中国語話者）
- 「**ていた**」と「**ている／る**」の混同
- 最近はよく、ネットでこのような言葉を見かけて**ていた**。（→見かける）（C19-2）
- 「王安石」は「臨川」で生まれたので、人に「臨川先生」を呼ばれた。（中略）現在の「臨川」は以前とより、よく**かわっていた**。（→かわっている）でも、「王安石」の偉さを忘れないので、彼の像を立てた。（C25-1）
- →**中国語に「テンス」がないことに由来？**

3. テンス・アスペクト

- 2. 誤用（中国語話者）
- 「**ていた**」と「**てくる**」の混同
- 経済が急速に発展している時代、女性たちは以前のような家庭主婦だけではなく、現代の女性たちは、独立して、社会での地位も大きく向上して**いた**。
（→向上してきた）（C15-2）
- ←「**てくる**」は「終点が現在のときタ形を取る」という特徴があり、難しい。
- Ex. 私はこれまで様々な語学を勉強して**きた**。
- （×勉強して**くる**）

3. テンス・アスペクト

- 2. 誤用（中国語話者）
- 連体修飾節での「ていた」と「た」の混同
- その代表は2005年に結婚していた（→結婚した）紀宮様だ。（C31-2）
- チチハルは長い歴史を持っていた（→持った、持つ、持っている）町である。（C11-1）
- Cf. 公演の日は、私が既に所属していた（×所属した）弓道部の練習もあったし、そんな退屈に思えるものに一時間も使いたくなかったのである。（J13-3）

3. テンス・アスペクト

- 3. 制限コードレベルに留まっている場合
- 「ている」が文末（単純な方の位置）に偏る（中国語話者）

	母語話者	韓国語話者	中国語話者
文末	259	307	452
連用修飾節	117	129	107
連体修飾節	224	228	147

3. テンス・アスペクト

● 4. 母語話者と差が見られる場合

● 「た」と「ていた」の違い

- 寺山〔修司〕は随筆集『家出のすすめ』の「お母さんの死体の始末」一章で「つよい青年になるためには母親から精神の離乳なしでは、ほかのどのような連帯も得られることはないでしょう（p.15）」と強く訴えていた（→訴えた）。

「若者は独り立ちできる自身がついたら、まず『親を捨て』ましょう」という寺山の主張に筆者も深く感銘を受けていた（→受けた）。

- → 修士論文、博士論文などでも見られる誤用

→ **実は、最も難しい使い分け**

3. テンス・アスペクト

- 4. 母語話者と差が見られる場合
- 「**ていた**」 (複雑な方の形式) の**使用数**

	母語話者	韓国語話者	中国語話者
ている	602	664	706
ていた	162	66	91

3. テンス・アスペクト

- 4. 母語話者と差が見られる場合
- 「ている」の連体修飾節（複雑な方の位置）での使用

	母語話者	韓国語話者	中国語話者
非受身	186	210	140
受身	38	18	7

4. 複文

- 1. 学習者ができていること
- 各意味類型の内容を表現する

4. 複文

● 2. 誤用

● 「なら」

- 本はあんまり好きじゃないですが、小説なら (→は) すきです。 (K08-3)
- 以前、村といえは多分ぼろぼろみたい感じが出るかもしれせん。でも、今、この町の村なら (→は)、びっくりさせるほど、すっかり新しくなりました。 (C14-1)
- [晩婚は] 一般的は30歳ぐらいです。30歳になって結婚しないなら、多分忙しくなりました。 (→と、忙しくなります) (C14-2)
- 書中にいる男女の起伏に富んだ運命を思い起こすなら (→と／ては)、林黛玉のように寮の廊下の壁に寄りかかって密かに涙をこぼしたことが何回もあった。 (C57-1)

4. 複文

● 2. 誤用

● 「なら」 (正用→習得目標)

- また、鎌倉には寺院が数多く存在し、円覚寺・建長寺・長谷寺・明月院などは寺院好きなら誰もが知っているほど有名な寺院である。(J01-1) (=であれば)

- かつては二十代で結婚するのが当たり前であったようだし、現に私の両親は父親が23歳、母親は21歳の時に結婚したそうだ。私自身も結婚するなら二十代の内に済ませたい。(J17-2) (=とすれば)

4. 複文

- 3. 制限コードレベルに留まっている場合
- 文体差がある形式の使用
- なく（て）—ず（に） （並列）
- から—ので—ために （原因・理由）
- とき—際、場合 （時）

4. 複文

- 4. 母語話者と差が見られる場合
- 前置き、譲歩

	母語話者	韓国語話者	中国語話者
「だろうが」など	89	43	4
「が・けど」全体	365	260	141

4. 複文

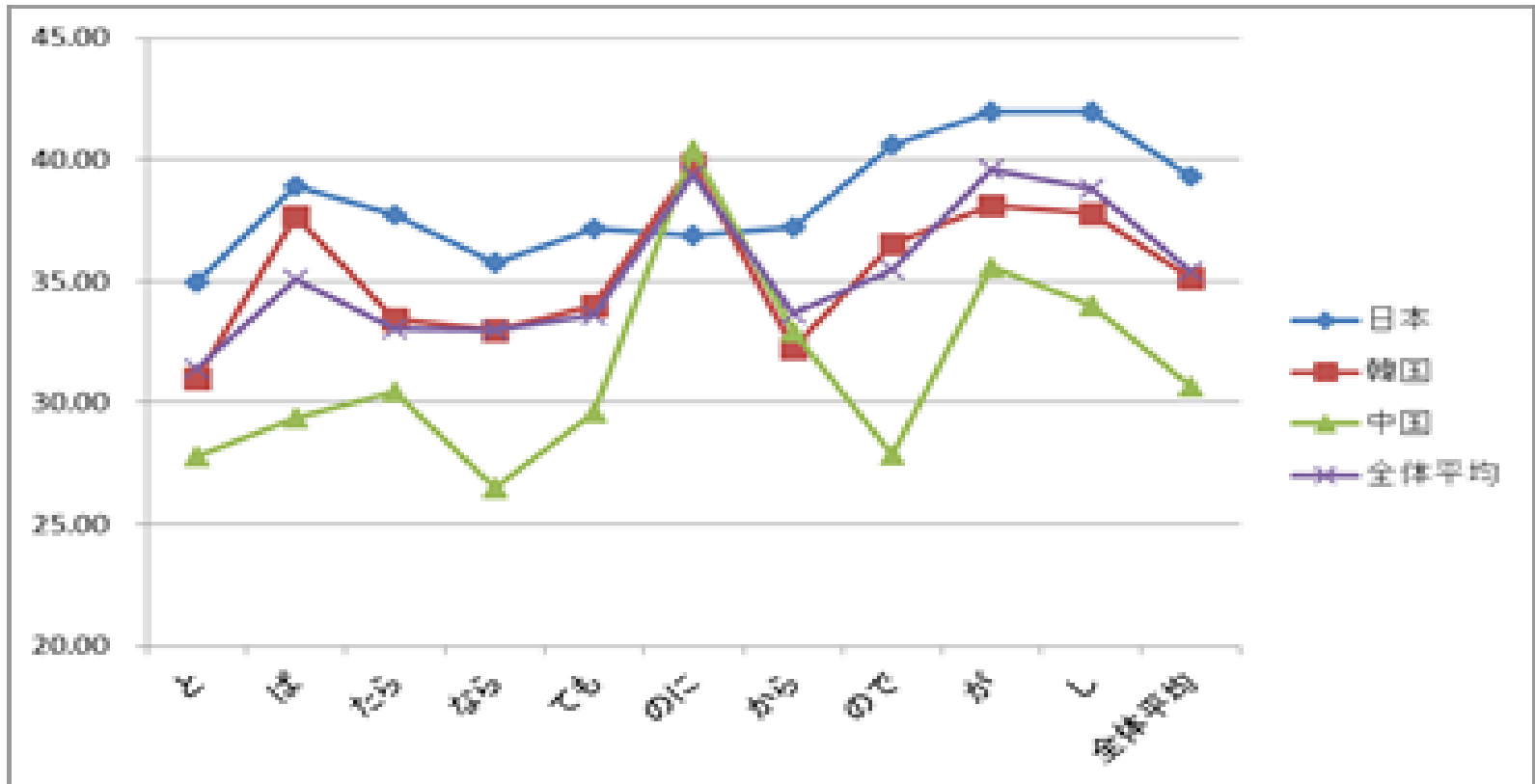
- 4. 母語話者と差が見られる場合
- 従属節に従属節が含まれる場合

● とはいえ実は私自身は1歳と数か月までしか広島には住んでおらず、それからずっと東京に住んでいるので広島に住んでいた記憶は無いが母の出身も市は違えど広島県出身であり毎年夏に帰省している。(J12-1)

● 恋愛が進展していくうち、結婚という選択が視野に入ってくるでしょうが、先ほどの述べたように、結婚を、他のライフスタイルと比較の中、選択する可能性は高いとは言えないでし、今までに交際した人と結婚するかもしれない。(J05-2)

4. 複文

- 4. 母語話者と差が見られる場合
- 文の長さ (B類従属節 < C類従属節)



5. まとめ

	ボイス	テンス・アスペクト	複文
学習者が習得ずみ	無生物主語の受身 使役の使用数	「ている」の前接動詞	各意味類型の内容を表現する
誤用	助詞の誤り 自動詞の受身化 視点制約違反 物主語の使役文	「ていた」と「ている／ る」の混同 連体修飾節での「ていた」と「た」の混同 「ていた」と「てくる」の混同	「なら」
制限コードレベル	接続形式の固定化	「ている」の文末への偏り	文体差がある形式の使用
母語話者と差あり	受身の使用数 「させてくれる」	「ていた」の使用数 「ている」の連体修飾節での使用	前置き、譲歩表現の使用 従属節に従属節が含まれる場合 文の長さ

5. まとめ

- 1. 学習者が習得：基本的機能（無生物主語の受身、使役、ている、複文の各類型）
- 2. 誤用：複雑な方が難しい（ていた）
● 複数の機能を持つものが難しい（なら）
● 母語とのズレ（自動詞の受身化、視点制約）
- 3. 制限コードレベル：接続形式／使用位置の固定化、
● 文体差の未習得
- 4. 母語話者と差：難しい形式の非用（受身、ていた）
● 教科書で触れられない用法の非用
● （前置き、譲歩表現）、
● 文の複雑さ（→文の長さ）

6. 指導案（シラバス）

- 初中級

- 形式の**基本的な表現**ができる
- →活用、接続、助詞など

- 中上級

- より**多様な構文環境**で使える
- **複数の用法**の確認（なら、が・けど）
- **形式の論理**にしたがって積み上げる（ていた）
- →文末から**従属節**（・連体節）へ、**文体差**の認識

- 上級

- **時間の捉え方の違い**の理解（「た」と「ていた」）
- **長い文**を書く（従属節の組み合わせ）

参考文献

- 庵功雄(2010)「中国語話者の漢語サ変動詞の習得に関わる一要因—非対格自動詞の場合を中心に」『日本語教育』146
- 庵功雄(2015a)「日本語学的知見から見た初級シラバス」庵・山内編(2015)
- 庵功雄(2015b)「日本語学的知見から見た中上級シラバス」庵・山内編(2015)
- 庵功雄(2017a)『一歩進んだ日本語文法の教え方1』くろしお出版
- 庵功雄(2017b)「学習者コーパスを用いた誤用観察の一試案—格助詞「に」を例に—」庵功雄ほか編『中国語話者のための日本語教育文法を求めて』日中言語文化出版社
- 庵功雄(2018)「日本語教育から見た『基本文型の研究』」庵功雄・石黒圭・丸山岳彦編『時間の流れと文章の組み立て』ひつじ書房
- 庵功雄・山内博之編(2015)『現場に役立つ日本語教育研究1 データに基づく文法シラバス』くろしお出版
- 久野暲(1978)『談話の文法』大修館書店
- 陳林柯(2017)「現代日本語における視点制約に関する定量的研究」2017年度一橋大学言語社会研究科博士論文
- 林四郎(1960=2013)『基本文型の研究』ひつじ書房から復刊(2013)

ご清聴ありがとうございました